

イスラエルの王である主、救い主、全能の主は、こう仰せられる。「わたしは初めであり、終りであり、わたしのほかに創造主はいない。」イザヤ 44:6 (創造主記)

ヤハウェは、初めであり終りである方です。この方は昔も今も常におられる方です。なぜなら「わたしは在る」という方だからです。

この箇所のことばは黙示録 1:8 では、「わたしはアルファであり、オメガである」と表現されています。ギリシア語のアルファベットで、アルファは最初の文字で、オメガは最後の文字です。

わたしこそ主であり、本当の創造主である。わたしは、あなたに力を与える。それは、わたしだけが本当の創造主であることを、人々が知るためである。

イザヤ 45:5,6 (創造主記)

偶像礼拝者は証拠を出しなさい。一体どこの創造主がクロス王のことを昔から語っていたか。主であるわたしではなかったか。わたしこそ本当の創造主、正義の救い主である。世界中の人々は、わたしを仰ぎ見て救われなさい。わたしこそ本当の創造主である。イザヤ 45:21,22 (創造主記)

おわりに

創造主は時間や空間に束縛されませんが、人は束縛されます。創世記の歴史記録の大部分は、創造されてそれぞれの時代を生きた人の観点から書かれています。

このようなわけで、一人のアダムによって罪がこの世界の中に入って来、罪の結果、死が入って来た。そして、すべての人が罪を犯したので、死は全人類に広がっていった」ローマ 5:12 (新改訳)

罪が支払うべき値は死、つまり創造主の呪いであるが、

創造主が与えてくださる自由な賜物は、私たちの主キリスト・イエスによって与えられる永遠の命、つまり創造主の永遠に渡る祝福である。ローマ 6:23 (創造主記)

すべての人は罪を持っているので、創造主の栄光に輝く救いに自分で到達することができなくなりました。

ローマ 3:23 (創造主記)

聖書は、すべての人が創造主に対する罪のために死ななければならないことを教えています。しかし人を愛する創造主は、罪の赦しを求める人々のために救いの方法を用意されました。それはイエス・キリストが、赦しを求める人の罪をすべて引き受けて、代わりに十字架上で罰せられることでした。これは、罪のない創造主であるキリストにのみ可能なことです。

キリストは私たちの罪を身代わりに負って刑罰を受けて死なれました。これを信じる人は、やがて甦って永遠のいのちを与えられます。そうでない人は永遠の死を受けることが聖書に書かれています。

あなたは、自分に頼ってこの贈り物を断るでしょうか。是非、キリストに信頼して永遠のいのちを受けませんか。

■著者紹介：ジョン・G・ハートネット博士

アデレード大学准教授。オーストラリアの物理学者・宇宙論者。聖書の創造論の世界観を信じる。ウェスタン・オーストラリア大学にて物理学専攻、学士号と博士号を授与される。オーストラリア研究会議 (ARC) からディスカバリー・アウトスタンディング・リサーチャー賞を授与されている。科学雑誌、書籍、会議録を通して 200 を越える論文を発表している。



יהוה

世界を造られた創造主



𐤎𐤏𐤍𐤐
𐤎𐤏𐤍𐤐
יהוה

この世界を造られた方には、御自身の名があります。古文書にその名がヘブル語で刻まれています。(左図の一番上はその名が古代ヘブル文字で、真ん中はアラム文字、一番下は現代ヘブル文字で書かれている)

この図を見ると、時の経過とともに文字が変遷していくのがわかるでしょう。このように言語は変わりゆくものです。

創造主御自身の名前は、ヤハウェで、ローマ字で YHWH・YHVH・Yahweh・Jehovah などと表記されます。このヘブル語の 4 文字は、神聖四文字と呼ばれます。

ユダヤ人たちは、この名を口にすることが許されなかったため、代わりに彼らはアドナイ、すなわち主と読み替えました。しかし、ヤハウェの文字通りの意味は、「存在するお方」あるいは「自ら存在するお方」です。ですから創造主はご自身のことを「わたしはある」とお呼びになったのです。

「わたしは、『わたしはある。』という者である。」また仰



「わたしはある」と名乗る存在が、燃える柴からモーセに語りかけた

日本語で「わたしはある」と訳された語は、ヘブル語の「ハヤ」で、ギリシア語で書かれた新約聖書でも同じ名が出てきます。そして、イエス・キリストが何度も自分を「わたしは（…で）ある」と呼んでいます。（英語では「I AM…」と訳されます）

多くの学者がヤハウェの最も適切な意味は「あらゆる存在の根源（ヤハウェ・アシェル・ヤハウェ）」だと考えています。聖書のサムエル記第一から、創造主はヘブル語の「ヤハウェ・テヴァ」すなわち「万軍をもたらしただけ」という名で知られていたことがわかります。この「万軍」とは天使の軍勢あるいはイスラエルの軍勢を指しています。（1サムエル記 17:45 参照）この創造主の固有名詞は、おそらくモーセの時代よりもはるか昔から知られていました。

創造主は、最初から存在される方で、何かによって存在するようになったわけではありません。この方は天と地、すなわち全宇宙を創造されました。

初めに、創造主が天と地とを創造された。

創世記 1:1（創造主訳）

聖書の最初に書かれているのがこのことばです。ここの「創造主」は、原語のヘブル語では「エロヒム」です。（訳者注：「エロヒム」は創造主訳聖書では「創造主」、新改訳聖書では「神」と訳されています。）

「わたしは主、これがわたしの名。」

イザヤ書 42:8（新改訳）

せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』と。」出エジプト記 3:14（新改訳）

日本語で「わたしはある」と訳された語は、ヘブル語の「ハヤ」で、ギリシア語で書かれた新約聖書でも同じ名が出てきます。そして、イエス・キリストが何度も自分を「わたしは（…で）ある」と呼んでいます。（英語では「I AM…」と訳されます）

英語の欽定訳聖書では、創造主の固有名詞である原語の「ヤハウェ」を「主」と置き換えて訳しました。この箇所をヘブル語で書くと

אני יהוה הוא שמי

で、YHWH は赤く囲んである部分です。（ヘブル語は右から左へと読みます）

唯一の創造主

「ヤハウェ」、すなわち神聖四文字 YHWH は、ヘブル語で書かれた聖書(旧約聖書)に 6,823 回出てきます。「創造主(エロヒム)」という語は 9,000 回出ていて、常に唯一の創造主を指しています。クリスチャンは、複数の神々や多神教は想定しません。

「私たちの創造主は^{ただひとり}唯一人、主である創造主だけである。」申命記 6:4（創造主訳）

この創造主の名前（主＝ヤハウェ）はより正確には「イエホバ」と発音します。これは英語では「Jehovah(ジェホバ)」、日本語では「エホバ」と訳されています。そしてこの聖句の「創造主」という語は、ヘブル語の「エロヒム」です。他にヘブル語の「エル」という語も「創造主」と訳されます。「エル」は「エロヒム」の派生語です。この「エル」という言葉は、例えば詩篇 22:1 に出てきます。主イエス・キリストは申命記 6 章 4 節を引用してこう言いました、

「一番大切な戒めはこれです。『イスラエルはよく聞きなさい。私たちの創造主は唯一人、主である創造主だけである。』」マルコ 12:29（創造主訳）

そういうわけでユダヤ人とクリスチャンは、唯一の創造主、同じ創造主、宇宙を造られた方を信じています。創造主はただ全能（すべてが可能）だけでなく、遍在（同時にあらゆるところに存在）しているのです。創世記 19 章に、

「そのとき、主はソドムとゴモラの上に、硫黄の火を天



ソドムとゴモラに降る火と硫黄の雨とそこから逃げるロトとその家族

の主のところから降らせ、」

創世記 19:24（新改訳）

この記録には、ヤハウェ（上記聖句の最初の「主」）がソドムとゴモラの町の上に火と硫黄の雨を天のヤハウェ（上記聖句の二つ目の「主」）のもとから降らせたことと記されています。

この出来事は、創造主が時間と空間に束縛

されない、遍在されるお方だということを示しています。言い換えると、いついかなる時もいかなる場所にもおられるということです。ですから、この方はすべてをご存じで、将来起こることも世の初めからご存じでした。

「わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる。』と言う。」

イザヤ 46:10（新改訳）

創造主は、私たちの救い主として、世に来られることが約束された方です。

「こわがっている者たちに言いなさい。『元気を出し、こわがるな。さあ、あなたがたの創造主だ。創造主が裁かれ、あなたがたを救われる。』」イザヤ 35:4（創造主訳）

「わたしこそ主であって、わたしのほかに救い主はいない。このわたしが告げ、救い、聞かせたのだ。あなたがたで異教の神を信じる者はいなかった。だから、あなたがたはわたしの証人である」と、主は仰せられる。

イザヤ 43:11,12（創造主訳）